

市民環境大学

喜瀬川に“ホタル”の光を灯そう！

～“ホタル”の生態と復活活動を学ぶ～



私たちの憩いの場所・喜瀬川

最近、各地の河川で絶滅した“ホタル”を復活させる住民活動が活発に行われています。

播磨町に残された貴重な自然である『喜瀬川』においても、水質の汚濁に伴いホタルが消えて久しくなりますが、最近、水質も少しずつ改善されてきており、ホタルが成育できる環境になりつつあります。

そのため、10月の市民環境大学では、情熱をもってホタルの復活活動に取り組まれている方々の話をお聞きしたいと思います。

ホタルの生態や喜瀬川でのホタル復活に興味を持たれている方など、多くの参加を期待しています。そして、いつの日か喜瀬川にホタルの光を灯しましょう。参加申し込みは不要ですので、直接会場にお越しください。

- 開催日時 10月5日(土) 午後1時～3時30分
- 開催場所 中央公民館 視聴覚室
- 講師 国土交通省 姫路工事事務所 水質調査係長 浜田 博 氏
 県立東はりま水辺の里公園(稲美町)園長 関 純三 氏
 養田川を守る会(加古川市尾上町) 小田 稔 氏
- 問い合わせ 産業生活課 ☎0794(35)2364



ごみ処理施設の見学会

私たちがごみステーションに分別をして出したあきびん、あき缶、ペットボトルおよびプラスチック容器類などの資源ごみは、再生利用のために、どのような処理がされているのか？

あるいは可燃ごみや粗大ごみはどのように処理されるのか？

私たちから出されたごみを処理している日本山村硝子(株)リサイクルセンター、加古郡リサイクルプラザおよび播磨町塵芥処理センターの施設見学会を開催します。見学希望者は、10月10日(木)までに、電話で申し込みください。



圧縮されたプラスチック容器類ごみ

- 開催日時 10月17日(木) 午前9時30分～正午
- 集合場所 役場駐車場(マイクロバスで現地へ送迎します。)
または加古郡リサイクルプラザ玄関前 午前9時30分集合
- 見学施設 日本山村硝子(株)リサイクルセンター ガラスびん再利用施設
加古郡リサイクルプラザ 粗大ごみ破碎施設、ペットボトル圧縮施設、プラスチック容器類圧縮施設、各種リサイクル教室設備(吹きガラス、紙すき、石けんづくりなど)
播磨町塵芥処理センター 可燃ごみ焼却施設、あき缶処理施設、動物死体焼却施設
- 申し込み 産業生活課 ☎0794(35)2364



いろいろな水生生物が見つかったよ

今回の観察会では、きれいな川に住むと言われているウズムシ(プラナリア)が見つかりました。絶滅が心配されているメダカも、多数見つかりました。そのほかサホコカゲロウ、コガタシマトビゲラ、スジエビ、タニコウチ、モズクガニ、モツゴ、ヨシノボリなど、昨年度の観察会では見られなかった多くの生物が新たに発見されており、少しずつ水質が改善されつつあることを確認しました。

来年度の観察会では新たにどのような生物が見つかるのか、とても楽しみです。町では、喜瀬川を多様な生物が生息する場所(ピオトープ)と考えており、このような水生生物観察会以外にも、水辺植物観察会の実施や専門家による野鳥調査と昆虫調査を実施しており、喜瀬川に生息する生物の現状と変化を観察しています。これらの催しを通じて、いつの日か住民の方々による喜瀬川の生物観察グループが生まれることを期待しています。



何が見つかったかな

井上 肇くん(播磨小学校二年) ぜんぜん生き物は、しぜんがあるから生きていられるのだと思いました。だから、生き物のかずが、前よりも増えたと思いました。おたまじゃくし、ヨシノボリ、いとんとんほのやこ、あめんぼう、モズクガニ、メダカ、ふな、コイの子どもがいたよ。

喜瀬川水生生物観察会に参加して



多くの水生生物が見つかりました

八月八日(木)の喜瀬川水生生物観察会には、子ども二十三名を含む四十五名が参加し、喜瀬川・緑道であいの道ふるさと橋付近において川底に潜む水生生物を観察し、水の汚れ具合を調査しました。子どもたちは、身近な川でありながら、普段めつたに入ることのない喜瀬川に入り、川底の小石の下にいる小さな生物の観察、網での魚とりなど、身近な自然とのふれあいの気持ち良さ、水辺の気持ち良さを楽しみました。

美しい喜瀬川を取り戻そう